

デジタル社会において だれ一人取り残されない社会を目指して

徳島文理大学

人間生活学部人間生活学科

八塚 向日葵(4年)
高田 佳奈(3年)
出水 咲妃(3年)
福島 一花(3年)
山田 珠以(3年)
加茂 海夢(2年)
弘中 茉実(2年)

総合政策学部総合政策学科

武市 梨花(4年)

短期大学部生活科学科食物専攻

川根 万世(1年)

短期大学部商科

後藤 圭(2年)
野口 美咲(2年)
坂本 朱音(2年)
福島 照美(2年)

デジタル社会の光と影

Case 1

光	刻一刻と変化する状況をリアルタイムで発信できる
影	情報の量が多すぎて有益な情報を見逃す



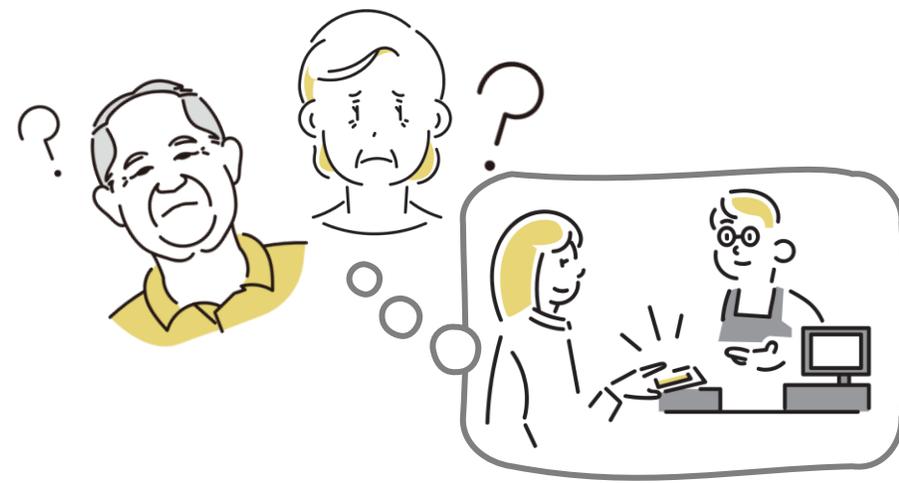
Case 2

光	どこでも誰でも手のひらの中で買い物ができる
影	情報の質に格差がありネットトラブルが増加



Case 3

光	新しい方法で行う消費者取引が増えた
影	情報機器活用力の差がデジタル・ディバイドを生む



Case 1

情報が多く、有益な情報を見落とすことがある

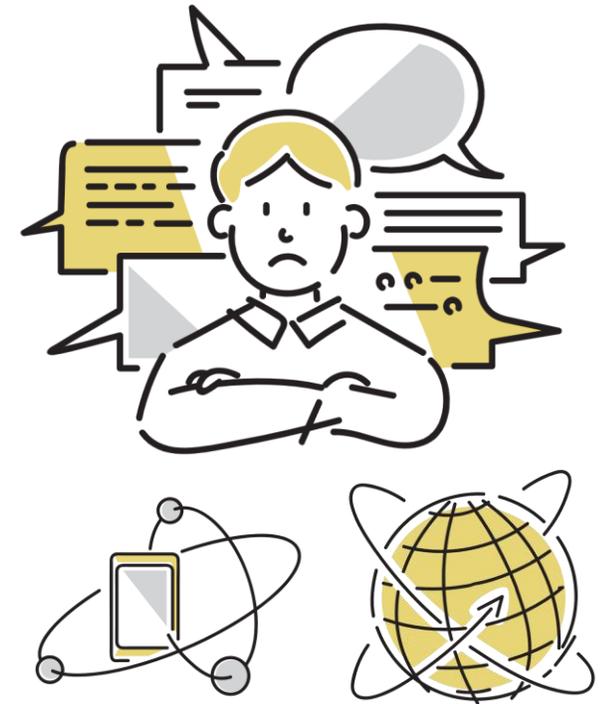
情報の量が多すぎて、 生活情報を有効に活用できていない

・情報量が多すぎて活用できていない

- ↳ クーポンの期限を見落とし使えない
リアルタイムの割引情報を見落とし後から気付く

・発信源が分からず不確かな情報が多い

- ↳ 誰が書いたのか分からない情報
検索履歴や購入履歴に基づく限られた情報



Case 2

実際に大学生になり被害にあったことがある

情報の質に格差があり、 インターネットトラブルが増加している

・サブスクリプションの契約

↳ 無料お試し期間からの自動更新
クーリング・オフの対象にならず
契約期間が長い

・誇大広告、嘘の広告、まぎらわしい広告

↳ 商品写真と実物が違う
注文と違う物が届いた



情報機器活用力の差が、 デジタル・ディバイドを生む

パソコンやスマートフォンを使いこなせるか、使いこなせないかで、待遇や機会の格差が増大しているだけでなく…

・セルフレジの普及

↳ 高齢者など不慣れな人には利用しにくい人との会話がな

・デジタル機器に頼りすぎている

↳ デジタル機器がないと生活できない便利になっているようで不便になっている



解決策：私たちの提言

メディアリテラシーを育む

Case 1

情報の量が多すぎて
有益な情報を見逃す

若者に
情報の整理・理解
を促す

- ・本当に必要な情報か
- ・必要な情報の
選択規準の明確化

Case 2

情報の質に格差があり
ネットトラブルが増加

若者に
情報の比較・選択
を促す

- ・意思決定における
批判的思考の習慣化
- ・正しい知識で
正しい情報の活用

Case 3

情報機器活用力の差が
デジタル・ディバイドを生む

行政や企業に
誰もが分かりやすい
情報の発信を促す

- ・デジタル機器の操作方法の
インクルーシブデザイン化